2024年5月21日

各　位

会　　社　　名　株式会社ゼネラル・オイスター
代　表　者　名　代表取締役社長　　　　　　吉田　秀則
（コード番号：3224　東証グロース）
問　合　せ　先　経営管理本部　部長　　　　川邊　英樹
（TEL.03-6667-6606）

(訂正)「特別損失（減損損失）の計上、2024年3月期通期業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」の一部訂正について

2024年5月15日付け適時開示「特別損失（減損損失）の計上、2024年 3月期通期業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」（以下「原適時開示書面」といいます。）において訂正すべき事項がありましたので、下記のとおりお知らせします。

記

１．訂正の理由

子会社の債務超過分に対する事業損失引当金の算定に誤りがあり、誤算定箇所の修正を行いましたが、原適時開示書面へ適切に記載できていなかったこと、また表と本文内の数値に齟齬があったことが理由となります。

２．今後の見通し

本訂正が今後に与える影響については軽微であると考えております。

３．訂正箇所

下線を付して表示している箇所を修正しております。

（訂正前）

（２）通期業績と前期実績の差異について
（個別）

	売上高 （百万円）	営業利益 （百万円）	経常利益 （百万円）	当期純利益 （百万円）	１株当たり 当期純利益 （円）
前期実績 (A)	549	△5	0	148	37.06
当期実績 (B)	404	△23	△18	38	9.54
増減額 (B)－(A)	△145	△18	△18	△110	△27.52
増減率 (%)	△26.4	―	―	△74.3	△74.2

（３）差異が生じた理由

2024 年３月期通期連結業績予測につきましては、第３四半期連結累計期間までは概ね計画通りに推移していましたが、牡蠣の最盛期である当第４四半期連結会計期間（2024 年 1 月～3 月）にかけて、1 月 1 日に発生した、能登半島地震の影響で、富山入善の牡蠣の浄化センターで、海洋深層水の取水パイプが切断するトラブルで、浄化体制の不安定が続き牡蠣の供給が減り、店舗事業、卸売事業とも売上が減少。

また同じ当第４四半期連結会計期間でノロウイルスが蔓延し、当社の厳しい安全基準に満たした牡蠣の調達が十分にできず、牡蠣の供給も減り、店舗事業、卸売事業とも、繁忙期に機会損失が発生しました。 この当第４四半期連結会計期間に生じた影響により、売上高は当初予測の 3,896 百万円に対し、実績値 3,790 百万円となりました。営業利益、経常利益につきましては、新規出店に伴う投資費用、当初 82 百万円の予測に対し、実績値は 97 百万円、及び募集費、当初 29 百万円の予測に対し、実績値は 45 百万円などがあり、営業利益においては当初 130 百万円の予測に対し、実績値は 16 百万円、経常利益において当初 128 百万円の予測に対し、実績値は 29 百万円、加工工場等の特別損失の計上により、親会社に帰属する当期純利益につきましては、当初 124 百万円の予想に対し、実績値は 95 百万円の損失になりました。

2024 年３月期通期個別業績につきましては、海産物の受託事業の売上減少に伴い、減収となりました。当該減収により、営業利益、経常利益の損失幅が拡大しております。また当期純利益は減益（前期実績 138 百万円　当期実績 38 百万円）となっております。

（訂正後）

（個別）

	売上高 （百万円）	営業利益 （百万円）	経常利益 （百万円）	当期純利益 （百万円）	１株当たり 当期純利益 （円）
前期実績 (A)	549	△5	0	148	37.06
当期実績 (B)	404	△23	△18	4	1.24
増減額 (B)－(A)	△145	△18	△18	△144	△35.82
増減率 (%)	△26.4	―	―	△97.3	△96.6

（３）差異が生じた理由

2024 年３月期通期連結業績予測につきましては、第３四半期連結累計期間までは概ね計画通りに推移していましたが、牡蠣の最盛期である当第４四半期連結会計期間（2024 年 1 月～3 月）にかけて、1 月 1 日に発生した、能登半島地震の影響で、富山入善の牡蠣の浄化センターで、海洋深層水の取水パイプが切断するトラブルで、浄化体制の不安定が続き牡蠣の供給が減り、店舗事業、卸売事業とも売上が減少。

また同じ当第４四半期連結会計期間でノロウイルスが蔓延し、当社の厳しい安全基準に満たした牡蠣の調達が十分にできず、牡蠣の供給も減り、店舗事業、卸売事業とも、繁忙期に機会損失が発生しました。 この当第４四半期連結会計期間に生じた影響により、売上高は当初予測の 3,896 百万円に対し、実績値 3,790 百万円となりました。営業利益、経常利益につきましては、新規出店に伴う投資費用、当初 82 百万円の予測に対し、実績値は 97 百万円、及び募集費、当初 29 百万円の予測に対し、実績値は 45 百万円などがあり、営業利益におい

ては当初 130 百万円の予測に対し、実績値は 16 百万円、経常利益において当初 128 百万円の予測に対し、実績値は 29 百万円、加工工場等の特別損失の計上により、親会社に帰属する当期純利益につきましては、当初 124 百万円の予想に対し、実績値は 95 百万円の損失になりました。

2024 年 3 月期通期個別業績につきましては、海産物の受託事業の売上減少に伴い、減収となりました。当該減収により、営業利益、経常利益の損失幅が拡大しております。また当期純利益は減益（前期実績 148 百万円　当期実績 4 百万円）となっております。

以　上